公益社団法人日本ライフル射撃協会

２０２４年度第４回理事会議事録

日時：２０２４年１１月３０日（土）　１３：３０～１６：３０

場所：　ジャパンスポーツオリンピックスクエア会議室９及びオンライン会議（Ｚｏｏｍ）

出席者（＊　テレビ会議による出席）

*松丸喜一郎会長　田村恒彦副会長　平眞専務理事　大野明敏常務理事　三木容子常務理事　平井宏治常務理事　佐橋朋木常務理事　*近藤正晃ジェームス常務理事（～１５：００頃）　*成山悟史常務理事　田中僚一郎理事　田口亜希理事　松島愛理事　酒寄貴瀬理事　穂苅美奈子理事　*粟生由紀理事（１５：２８～）　*寺澤良悦理事　藤枝操理事　*横沢聡理事　尾﨑和郎理事　髙橋信吾理事　仲本渚理事　五十嵐治人理事　*堀水宏次郎理事

永谷喜一郎監事

理事：総数２７名中、以上出席　２３名
監事：総数２名中、以上出席１名

議事録署名人：松丸会長、田村副会長、永谷監事

議長：代表理事　松丸喜一郎（所用により途中から代表理事　田村恒彦に交代）

高柳喜人佐賀県ライフル射撃協会理事長からの挨拶

理事会の開会に先立ち、高柳喜人理事長より、国民スポーツ大会（以下国スポ）協力への謝辞が述べられた。「課題はあったものの、行政および私たち自身が全力を尽くした。本日この場を借りて、心より感謝を申し上げる」との挨拶があった。

会議の開始宣言

平専務理事が１３時３３分に理事過半数出席で理事会が成立するとの宣言をした。事務局が、オンライン会議システムにより、出席者の音声が即時に双方向に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認して議案の審議に入った。

1　会長挨拶

現在、ISSF 常務理事会および総会が進行中である。松田コーチの尽力により、トルコのディケッチ選手が来日予定である。トルコ協会も普及活動に協力しており、射撃競技が注目される機会として広報を推進したい。問い合わせが増加することが予想されるため、普及および会員増加につなげる対応をしていただきたい。

＜審議事項＞

2　会長提案　審議事項なし

3　総務委員会

3.1　役員候補者の選考に関する規程の改定（継続審議）

平専務理事が資料に基づき説明を行い、議長が理事会に諮った。訂正を反映した改定案が理事会により承認された。

訂正内容

第７条第２項第１号の「当該候補者が、」を削除する。

補足説明

本審議は役員就任期間および再任の上限回数に関するガバナンスコードの基準に対応するためのものである。適格性審査については予備チームと協議し、日本ライフル射撃協会として審査書類の文言の修正を行っている。ガバナンスコード上では、監事の任期制限はない。しかし、日ラとして定める規程とした。（松丸会長）

質疑応答

質問：理事および監事の在任期間は、１０年を超えてさらに２期延ばすことが可能か。（田村副会長）

回答：いずれも２期４年の延長が可能である。（平専務理事）

3.2　JRSF 将来構想進捗状況（２０２４年度半期進捗）

松丸会長および各委員長、部会長が資料に基づき進捗状況を説明した。議長が理事会に諮り、訂正および修正を反映した案が理事会により承認された。

訂正内容

項目１９について、「審議」を「報告」に訂正する。

補足説明

項目１８について、 GEDI 委員会は国際連盟（IF）内で設置されたものであり、今後時間をかけて浸透していく計画である。（松丸会長）

質疑応答

項目１６について、老齢施設での実施については、普及・生涯スポーツ委員会で検討するよう求める。（松丸会長）

承知した。（成山普及・生涯スポーツ委員長）

4　推薦委員会　審議事項なし

5　国スポ委員会

5.1　滋賀国スポのＫカードと大会要項

国スポ委員長が資料に基づき説明を行った。議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

6　選手強化委員会　　審議事項なし

7　競技運営委員会

7.1　公認審判員

競技運営委員長が資料に基づき説明を行った。議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

7.2　日本記録公認

三木競技運営委員長が資料に基づき説明を行った。議長が理事会に諮り、訂正を反映した案が理事会により承認された。

訂正内容

５０ｍ競技において、屋内射場で記録されたものは、屋内記録として記載する。

質疑応答

本会のホームページで５０ｍ伏射女子の屋内記録が確認できなかった。(松島理事)

7.3　ライフル射撃場の公認に関する規程改訂について

三木競技運営委員長が資料に基づき説明を行った。議長が理事会に諮り、訂正を反映した案が理事会により承認された。

訂正内容

第１６条の書式のずれを修正する。

7.4　電子標的の再公認廃止およびターゲットテストについて

三木競技運営委員長が資料に基づき説明を行った。議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

7.5　国スポ新種目の記録と規程改訂について

三木競技運営委員長が資料に基づき説明を行った。議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

7.6　次世代機器選定プロジェクト発足の件

三木競技運営委員長が資料に基づき説明を行った。議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

補足説明

本件はプロジェクト発足の承認を目的とするものである（三木委員長)。
デジタルピストルの後継機の選定においては公募を実施し、開発計画書を提出した上で１年の猶予期間を経て導入した。短期間で決定する必要はなく、時間をかけて導入する方針とする(松丸会長)。

7.7　２０２５年度事業計画　Ｇ１Ｇ２大会（案）

三木競技運営委員長が資料に基づき説明を行った。議長が理事会に諮り、各自が次回理事会までに引き続き検討することを確認した。

7.8　パラ種目の段級規程に関する推薦委員長からの要望

大野推薦委員長より推薦委員会から競技運営委員会（田中辰美副委員長）に依頼したパラ種目の段級規程の改訂について進捗状況の確認がなされ速やかな対応が要望された。
三木委員長より田中副委員長と打ち合わせて対応すると回答があった。

8　普及・生涯スポーツ委員会

8.1　JRSF 認定コーチの認定について

成山普及・生涯スポーツ委員長が資料に基づき説明を行った。議長が理事会に諮り、案の通り理事会によって承認された。

9　マーケティング委員会　　審議事項なし

10　コンプライアンス委員会　　審議事項なし

11　アスリート委員会　　審議事項なし

12　愛知名古屋アジア競技大会準備室　　審議事項なし

＜報告事項＞

13　会長報告

13.1 JOC 理事候補者の推薦について

会長より、資料に基づいて、引き続き田口亜希理事を推薦するとの報告があった。質問はなかった。

13.2 ISSF 常務理事会、総会に関する報告

会長より、１１月に開催された ISSF 常務理事会および総会に関する報告があった。

- ISSF 委員の選任については、藤井事務局長、粟生理事、エミール元ピストル日本代表コーチ、小野医師が立候補し、全員が当選した。五人以上の委員を輩出しているのは中国、ドイツ、韓国であり、日本は４番目の位置となった。四人を輩出した国はイギリス、エジプト、イタリア、アメリカである。日本のプレゼンスが高まっている。
- GEDI 委員会が設置され、パラ射撃を国際連盟（IF）に統合することを検討する予定である。
- eSports 委員会が臨時委員会から常設委員会に移行することが決定した。2025年サウジアラビアでの開催が決定しているIOCのOEG（Olympic Esports Games）の参加を目指すことが決定された。

14　総務委員会

14.1 半期決算報告

平専務理事より、資料に基づき報告があった。

補足説明

収支は予算から大きく変動する状況ではなく、若干の赤字軽減が見られる。

14.2 モダナイズ部会による新システム導入状況報告

谷川モダナイズ部会長より、画面共有資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。

質疑応答

会員なりたい場合、どうなっているのか（大野常務理事）

→従来通りの流れとなる。本人が申請し、加盟団体担当者が承認する。承認された後に支払いが可能となる。（谷川モダナイズ部会長）

→加盟団体にもわかるように説明してほしい。（大野常務理事）

足りない項目があった場合、デザインを変更したり項目を追加したりできるのか。（松島理事）

→過去の理事会で確認した通り、既存の仕組みを使用する。デザインの自由度は高くないが、追加項目は容易に可能である。（谷川モダナイズ部会長）

→パッケージは基本的に改造しない方が良い。理由として、ソフトウェアのバージョンアップがある中で、日ラ固有の改造が多いと将来的なバージョンアップができなくなるためである。基本性能を活かすことが効率的であり、コストも抑えられる。（永谷監事）

14.3 ISSF 主催「電子標的システム（EST）インストラクター講習会」への参加と修了報告

藤井彌国際部会長より、口頭にて報告があった。

ISSF の EST 国際審判の講師になるための研修に、藤井彌国際部会長および粟生理事が ISSF から招待され、参加した。世界から１１名が選ばれ参加する中、藤井彌国際部会長がインストラクターとして認定され、粟生理事がインストラクター候補として認定された。

質疑応答

SIUS の操作を教えてもらえるのか。（尾﨑理事）

→そうではない。これは EST の技術員向けの講習ではなく、ISSF の EST 国際審判の資格付与を目的とした講師養成のための研修である。（藤井彌国際部会長）。

15　推薦委員会

15.1 審査結果

推薦委員長より、資料に基づき報告があった。質問はなかった。

補足説明

AP（エアピストル）を手放し、３年間競技会に出場していない者から、AP 推薦の申請があった。この者はライフル講習と段級を保有しており、直ちに推薦してほしいとの要望であった。しかし、BP（ビームピストル）の試合参加を求めた上で申請を差し戻し、再検討を促したが、理解を得られなかったため、不承認とした。選手または選手候補として認められるには、年２回の競技会参加が必要であると判断した。

15.2 指導用空気拳銃に関する現状報告

田中僚一郎推薦副委員長より、口頭にて報告があった。

- 指導用空気拳銃を所持している者は３３名、所持丁数は４５丁である。
- 指導実績がない者および今後の指導予定がない者の回答が３名、未回答が５名であった。これらの者に対しては放銃を勧告し、勧告に従わない場合は所持取り消しを行う予定である。この件については、１２月の推薦委員会で検討する予定である。
- 所持取り消しに関する対応は、１１月１２日以降、改定された推薦基準要綱に基づき施行している。

質疑応答

APの順番待ちが１５名いるが、どの程度のペースで順番が進むのか。（田村副会長）

→エリート枠が優先されるため、月に１名程度しか進まない。５００人枠拡大を引き続き働きかける。（大野推薦委員長）

16　国スポ委員会

16.1 滋賀国スポリハーサル大会報告_アンケート

国スポ委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。

補足説明
リハーサル大会は非常に暑い状況で行われ、最高気温が３５度を超える日が続いた。このため、本大会に向けて必要な対応について実行委員会と確認を行った。

能勢の射撃場そのものに関しては、設備上の問題はなかった。一方で、警察学校においては、暑さとともに設備の不足が指摘された。

16.2 佐賀国スポ報告_成績_アンケート

平井国スポ委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。

補足説明
県知事が自ら賛同し、県外開催において県職員が対応したこともあり、全体的に好印象であった。（平井委員長）

CFPのファイナル出場者が腸捻転を起こし、試合後に病院で治療を受けた。暑い中で大会を運営する際には予測不能な事態が起こり得るため、役員のさらなる注意を求めたい。（田村副会長）

アーチェリー競技はほとんど夏季に行われる。今年も高温が続いたが、事前準備は行われていたのか。（穂苅理事）

→文書化はしていないが、ガイドラインを作成している。（大野常務理事）

→夏場の大会における安全性の確保は、今後の重要な課題である。（田村副会長）

17　選手強化委員会

17.1 イースト壁崩落に関する報告

佐橋選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。

補足説明
外部で使用した費用については、JSC が負担すると口頭で伝えられたが、文書による記録はない。

TRには短時間しか滞在できず、荷物の持ち出し以外の対応が難しい状況である。

他のNFと連携し、JSCに対して協会から文書を提出する予定である。

NTCで予定していた内容については、栃木および自衛隊の射撃場を活用する計画である。

17.2 選手強化委員会２０２４年１１月１日委員名簿更新

佐橋選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。

17.3 ５０ｍライフル新外国人コーチの報告

佐橋選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。

補足説明
新しく就任するキム・ヨングン（韓国）コーチは、キム・ウーヨン（韓国）コーチと同様に日本に滞在予定である。

これまで５０ｍライフルの代表コーチを務めていたマキシモヴィッチ・ゴラン（セルビア）コーチに代わり、５０ｍライフルの代表コーチを担当することとなった。

17.4 ISSF グランプリ台北成績

選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。

17.5 ワールドユニバシティーチャンピオンチップ成績

選手強化委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。

17.6 ディケチ選手（トルコ）来日予定

選手強化委員長より、口頭にて報告があった。質問などはなかった。
平専務理事より、協会の広報活動としてディケチ選手にも協力してもらう予定であるとの報告があった。

補足説明
ディケチ選手は１２月３日に到着し、８日に出発する予定である。

親善試合および選手向けの講習は栃木で行う計画である。

NHK が１２月８日（日）および１２月１６日に取材を予定している。

広報活動を進めるにあたり、選手本人に負担をかけないよう十分に留意する（平専務理事）。

17.7 ２０２４パリ大会の総括について

田村副会長より、２０２４パリ大会の総括の必要性について意見が述べられた。

NTC ができたものの、成績は過去最低であった。この結果を真摯に受け止めるべきであると指摘された。また、他国との成績差やその原因を明確に調査し、次回の LA 大会に向けてどのような強化策を講じるべきか検討する必要があるとされた。

さらに、今回の結果については、２月の理事会において責任の所在を説明し、議論を行うべきであると提案された。

18 競技運営委員会　　報告事項なし

19 普及・生涯スポーツ委員会

19.1 ２０２４年度スポーツ射撃体験会 実施状況

普及・生涯スポーツ委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。

19.2 能登半島復興支援スポーツ射撃体験会

普及・生涯スポーツ委員長より、資料に基づいて報告があった。質問などはなかった。

20 マーケティング委員会

20.1 ２０２５年OEGサウジアラビア大会へのエントリー申請

近藤マーケティング委員長より、口頭にて報告があった。

OEGの成功を受け、さらに大会の価値を高めるべきであるとの認識がIOCのバッハ会長より示された。２０２５年に大会が開催される予定であり、OEGでは射撃が最も高く評価された競技であったため、今回もエントリー申請を行う。

エントリー枠は拡大しており、IF（国際連盟）もこの大会に興味を示している。ISSFは現在、IOCに対して計画を提出中である。昨年と同様に、競技設計を含めて日ラが中心的な役割を果たす見込みである。また、IF内での位置付けが変わり、OEGは臨時委員会から常設委員会へ移行する予定である。この中で、日本のプレゼンスをさらに示すことが求められている。

若い世代を中心に射撃への興味を喚起し、それを通じて新たな事業や収益モデルの創出を図る。これに向けて、精緻な計画の設計を進めていく。なお、２０２３年OEGは招待制の参加形式であったが、次回大会では地域別予選がIFから求められているため、その方式と日程を策定する必要がある。

21 コンプライアンス委員会

21.1 ガバナンスコード適合性審査状況報告

平コンプライアンス委員長より、ガバナンスコード適合性審査状況について報告があった。

補足説明
適合性審査チームによる強引な指導は確認されていない。今回承認した規程での運用に問題はないと判断される。（松丸会長）

コンプライアンス委員会の年１回開催が定められており、今年度中に対応する予定である。（平委員長）

質疑応答

実施しにくいものは何か。（田村副会長）

→危機管理マニュアルの策定である。来年度中に対応する。（平委員長）

22 アスリート委員会　報告なし

23 愛知名古屋アジア競技大会準備室

23.1 アジア競技大会準備進捗状況報告

田中僚一郎スポーツコーディネーターより、口頭にて報告があった。

TDが先週視察に来訪し、承認が得られた。指摘されている問題点をクリアしつつ、準備を進めていく。（松丸会長）

１１月２１日からTDとしてヘンリー・オカ氏が来訪し、条件付き承認となった。今後、確認文書を組織委員会とTD間で交わし、対応を進めていく。大きな課題としては、１０ｍ射撃場のエレベーターが１基しかないが、２基もとめられていることである。代替案として、ファイナル射撃場を１０ｍ射撃場として横向きに利用することをTDより提案された。この射撃場は幅が２３.３ｍあり、十分な対応が可能である。（田中僚一郎スポーツコーディネーター）

24 会務報告

24.1 袴田名誉副会長の叙勲報告：旭日双光章

藤井彌事務局長より、資料に基づいて報告があり、出席者一同で祝福した。

24.2 出来氏（和歌山県）の叙勲報告：旭日単光章

藤井彌事務局長より、資料に基づいて報告があり、出席者一同で祝福した。

以上各業務執行理事より職務執行の状況報告があった。
１６：３０に議長が閉会を宣言した。
上記議事の経過の要領及びその結果を明確にするため、出席した代表理事および監事が記名押印する。

２０２４年１１月３０日
議事録署名人
公益社団法人日本ライフル射撃協会

議長・代表理事　　松　丸　喜　一　郎　　印

松丸喜一郎

代表理事　　田　村　恒　彦　　田村恒彦　印

監事　　永　谷　喜　一　郎　　永谷喜一郎　印